

# 壁紙施工要領書

## MATERIALS

無機材・珪藻土・木粉・オレフィン壁紙

### 該当品番

- Lilycolor MATERIALS (2024-)  
LMT-16006~16013、16239、16240、16243~16258
- WILL (2026-2029)  
LWT-1107~1112、1115、1116

### 施工の下準備

施工の下準備は【一般壁紙】施工要領の「1 作業確認」「2 事前準備」「3 施工環境の調整」または、【リリカラマテリアルズ施工上のご注意】をご確認ください。

### 接着剤

糊は【一般壁紙】施工要領の「5 接着剤と養生」をご確認ください。

### 壁紙の特徴

左官材料のひとつである珪藻土や鉱物、木粉、オレフィンチップを加工した壁紙です。

### 商品選択上のご注意

表面層が剥離しやすく、タタミジワ等がつきやすい商品です。

透湿性は低く、裏面に水引きしても表面まで浸透しにくくなっています。また珪藻土の粒子に無数の細かい孔があるために、保湿性が高く表面からの水分の揮発に時間が掛かります。

伸縮性があり、あと伸びの現象が見られることがあります。

自然由来の商品は、色柄やジョイント部の色差、表面素材の脱落が発生する場合があります。

天井高が高い壁面（目安として4m以上）への使用は避けてください。施工時に糊の水分を吸って重みで破れやすくなります。

天井への施工は避けてください。照明器具が接近する天井面では、静電気などの影響によりホコリが付着しやすく、壁面に比べて汚れが目立ちやすくなります。また、照明器具の設置や交換時に器具が壁紙に接触することで、表面素材の剥離や脱落が生じる恐れがあります。

## 1 下地調整

- 施工後の下地の不陸の目立ちを避けるために、下地面はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- 下地と同色の樹脂入りのパテを使用してください。強度の弱いパテは剥がれの原因になります。
- 湿式工法による下地（コンクリート、モルタルなど）や、パテ・シーラーを施した場所は十分に乾燥（水分11%以下）していることを確認してください。未乾燥状態での施工は壁紙の変色、かびの発生を招くことがあります。
- 接着性の悪い下地（ケイカル板、粉吹き下地、ペンキ下地、化粧板など）には必ずシーラーを塗布してください。下地を補強し壁紙の剥がれ、目開きを防ぎます。

## 2 接着剤

- 接着剤は、原液タイプをお勧めします。希釈タイプ使用の場合は、でん粉系の接着剤にエチレン酢ビ系ボンドを10~20%程度混合し、糊：水=10：6程度を目安に多めに塗布してください。
- LMT-16011~16013は、裏打ち紙にフリースを使用しています。通常の糊でも施工できますが、フリース専用糊を使用することで下地がきれいなまま壁紙を剥がすことが可能になり、リフォーム等にお勧めです。
- 水分の多い薄い糊の場合、壁紙が糊自体を吸い込んでしまい、接着力が低下します。水分を余分に吸い込むことで伸び切るまでの時間が長くなり、ふくれの原因にもなります。
- 表面に接着剤等が付着した場合は、変色・シミ等の原因になりますので、きれいな水を使用し、固く絞った布等で拭き取ってください。

リリカラ株式会社  
2026年5月

MATERIALS\_無機材・珪藻土・木粉・オレフィン壁紙\_1

### 3 養生・オープンタイム

- オープンタイムをあまりとらずに施工しますと、表面層の剥離、割れ等が発生し非常に施工しにくくなります。
- 接着剤塗布後は、オープンタイムを5～15分程度、施工可能時間は20分以内を目安に作業を進めてください。冬期、寒冷地ではオープンタイムを長めにとってください。
- オープンタイムを長く取りすぎると、剥離や破れのおそれがあります。糊付後ははいねいに扱ってください。夏場など気温が高い時期は、乾燥が早くなり、相ハギしやすくなりますので、オープンタイムは短めにとってください。また、オープンタイムの取り過ぎや、養生袋の保管等による高温多湿環境下になると、壁紙表面の素材が落下しやすくなるおそれがありますので、ご注意ください。
- 接着剤塗布後はタタミジワを防ぐためにも、大きくたたみ上積みは避けてください。

### 4 なで付け・ジョイント

- ジョイントが目立ちやすいため、目地取り施工等に対応した方がきれいに仕上がります。場合によってはリバース施工も一案です。カットする際、カッターは薄刃の物を使用し、こまめに替えて常に鋭利な状態で使用してください。
- 重ね裁ちを行う場合は、下地まで切り込まないように下敷き等を使用してください。目開きの原因となります。
- 糊付け後貼り出す際に材料の破損に注意してください。水分を吸って強度が低下した裏打ち紙が壁紙の重量に耐えきれず、切れる可能性があります。
- 表面の粒子が取れやすいので、なで付けは柔らかい刷毛を使い丁寧におこなってください。刷毛を使用すると表面素材が脱落しやすくなるものは、プラスチック製のヘラを寝かせて使用してください。
- ジョイントはウレタン製のローラーで抑えるようにしてください。ローラー跡が残りやすいため、強く抑えすぎないようにしてください。ローラーは角を立てないようにしてください。
- 復元力がないので、表面形状のつぶれやツヤ、折れ目や折れジワについては、十分に注意してください。
- 壁紙表面に水や接着剤が付着すると変色の原因にもなります。付着した場合は直ちに拭き取るようにしてください。
- 手垢等については拭き取ることが困難です。付かないようご注意ください。
- 吸水性の低い下地（シーラー塗布面、化粧板等）では、あと伸びによるフクレが発生することがあります。なで残しのないように繰り返し何度もエア抜きをおこなってください。

### 5 施工後

- 施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。特に、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目開き、剥がれの原因になります。